

## 電磁気学 演習第 1 回 — 準備

## (自習問題) ベクトル

ベクトル:  $\mathbf{A} = (A_x, A_y, A_z) = A_x \mathbf{e}_x + A_y \mathbf{e}_y + A_z \mathbf{e}_z$ スカラー積:  $\mathbf{A} \cdot \mathbf{B} = A_x B_x + A_y B_y + A_z B_z$ ベクトル積:  $\mathbf{A} \times \mathbf{B} = (A_y B_z - A_z B_y, A_z B_x - A_x B_z, A_x B_y - A_y B_x)$ 

- (1) 二つのベクトル  $\mathbf{A}$ ,  $\mathbf{B}$  が作る平行四辺形の面積  $S$  が  $|\mathbf{A} \times \mathbf{B}|$  に等しいことを示せ. ただし,  $\mathbf{A}$  と  $\mathbf{B}$  は互いに平行でないとする.
- (2) 三つのベクトル  $\mathbf{A}$ ,  $\mathbf{B}$ ,  $\mathbf{C}$  が作る平行六面体の体積  $V$  が  $|\mathbf{A} \cdot (\mathbf{B} \times \mathbf{C})|$  に等しいことを示せ. ただし,  $\mathbf{A}$ ,  $\mathbf{B}$ ,  $\mathbf{C}$  は互いに平行でなく同一平面上にないものとする.
- (3) 任意の三つのベクトル  $\mathbf{A}$ ,  $\mathbf{B}$ ,  $\mathbf{C}$  について  $\mathbf{A} \cdot (\mathbf{B} \times \mathbf{C})$  をスカラー三重積 (scalar triple products) という. スカラー三重積について次の恒等式が成り立つことを示せ.

$$\mathbf{A} \cdot (\mathbf{B} \times \mathbf{C}) = (\mathbf{A} \times \mathbf{B}) \cdot \mathbf{C} \quad (1.1)$$

- (4) 任意の三つのベクトル  $\mathbf{A}$ ,  $\mathbf{B}$ ,  $\mathbf{C}$  について  $\mathbf{A} \times (\mathbf{B} \times \mathbf{C})$  をベクトル三重積 (vector triple products) という. ベクトル三重積について次の恒等式が成り立つことを示せ.

$$\mathbf{A} \times (\mathbf{B} \times \mathbf{C}) = \mathbf{B}(\mathbf{A} \cdot \mathbf{C}) - \mathbf{C}(\mathbf{A} \cdot \mathbf{B}) \quad (1.2)$$

- (5) ベクトル三重積について次のヤコビ恒等式 (Jacobi identity) が成り立つことを示せ.

$$\mathbf{A} \times (\mathbf{B} \times \mathbf{C}) + \mathbf{B} \times (\mathbf{C} \times \mathbf{A}) + \mathbf{C} \times (\mathbf{A} \times \mathbf{B}) = 0 \quad (1.3)$$

- (6) 任意のベクトルの四重積  $(\mathbf{A} \times \mathbf{B}) \cdot (\mathbf{C} \times \mathbf{D})$  について次の恒等式が成り立つことを示せ.

$$\begin{aligned} (\mathbf{A} \times \mathbf{B}) \cdot (\mathbf{C} \times \mathbf{D}) &= (\mathbf{A} \cdot \mathbf{C})(\mathbf{B} \cdot \mathbf{D}) - (\mathbf{A} \cdot \mathbf{D})(\mathbf{B} \cdot \mathbf{C}) \\ &= (\mathbf{A} \cdot \mathbf{C})(\mathbf{B} \cdot \mathbf{D}) - (\mathbf{A} \cdot \mathbf{D})(\mathbf{B} \cdot \mathbf{C}) \end{aligned} \quad (1.4)$$

ヒント

式 (1.4) は三重積についての恒等式 (1.1), (1.2) を用いて示すことができる.

### (自習問題) 電磁気学基礎の復習 (1)

位置  $\mathbf{x}_0$  に点電荷  $q$  が存在するとき、そのまわりの空間には次の静電場できる。

$$\mathbf{E}(\mathbf{x}) = \frac{1}{4\pi\epsilon_0} \frac{q}{|\mathbf{x} - \mathbf{x}_0|^2} \frac{\mathbf{x} - \mathbf{x}_0}{|\mathbf{x} - \mathbf{x}_0|} \quad (1.5)$$

ただし、 $\epsilon_0 = 8.854 \times 10^{-12} \text{ F/m}$  は真空の誘電率である。

(1)  $z$  軸上の点  $\mathbf{P} = (0, 0, a)$  と点  $\mathbf{P}' = (0, 0, -a)$  に、それぞれ点電荷  $q$  があるとき、 $x$  軸上の点  $\mathbf{R} = (R, 0, 0)$  における電場  $\mathbf{E}(\mathbf{R})$  を求めよ ( $a > 0$  とする)。 $\mathbf{E}$  はベクトル量なので、大きさだけでなく向きも答えること。

(2)  $z$  軸上に等間隔に並ぶ無限個の点  $\mathbf{P}_n = (0, 0, an)$  ( $n = 0, \pm 1, \pm 2, \dots$ ) を考え、そのそれぞれに点電荷  $q$  があるときの電場  $\mathbf{E}(\mathbf{R})$  を求めよ。

(3) 電荷の線密度  $\lambda = q/a$  を一定に保ちながら、 $q \rightarrow 0$  かつ  $a \rightarrow 0$  の極限をとったときの電場  $\mathbf{E}(\mathbf{R})$  を求めよ。

### (自習問題) 電磁気学基礎の復習 (2)

(1)  $y$  軸上の点  $\mathbf{Q} = (0, b, 0)$  と  $\mathbf{Q}' = (0, -b, 0)$  を通る  $z$  軸に平行な二本の直線を考える ( $b > 0$  とする)。それぞれの直線状に一樣な線密度  $\lambda$  の電荷が分布しているとき、 $x$  軸上の点  $\mathbf{R} = (R, 0, 0)$  における電場  $\mathbf{E}(\mathbf{R})$  を求めよ。

(2)  $z$  軸に平行で  $y$  軸上の点  $\mathbf{Q}_n = (0, bn, 0)$  ( $n = 0, \pm 1, \pm 2, \dots$ ) を通るような、等間隔に並ぶ無限本の直線を考える。それぞれの直線に一樣な線密度  $\lambda$  が分布するときの電場  $\mathbf{E}(\mathbf{R})$  を求めよ。

(3) 面密度  $\sigma = \lambda/b$  を一定に保ちながら、 $\lambda \rightarrow 0$  かつ  $b \rightarrow 0$  の極限をとったときの電場  $\mathbf{E}(\mathbf{R})$  を求め、 $\mathbf{E}(\mathbf{R})$  が場所によらず一定であることを示せ。

以上